

伏見天皇本影印

源氏物語

七

古典
文庫

伏見天皇本影印

源氏物語

七

古典文庫

平成四年六月二十五日印刷発行

非売品

編者 吉田幸一

七 発行者 吉田幸一

源氏物語

印刷者 白橋印刷所

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話(三九一〇)二七一七
振替口座東京九・一四五七七番

第七冊 目次

凡例	三
五行 幸	五
三〇 藤袴（蘭）	五
三 真木柱（披 ^{（ママ）} 柱）	一三七
三 梅 枝	三九
三 藤裏葉	二九一
所収本書誌	三六五

口絵「桐壺」須磨」の中から（一六ページ）

凡例

一、本書には、架蔵『源氏物語』五十四帖三十二冊を十四分冊に複製するに当たり、その第七冊目として、「行幸・藤袴・真木柱合一帖」と「梅枝・藤裏葉合一帖」の二冊を縮写影印して収めた。

一、影印するに当たり、大体次のようにした。

1 原本諸帖には、首尾に白紙（遊紙）の有無の相異がある。首の白紙一丁には、後人による巻名の押紙が有るものは扉の役目をしている。ないものは、白紙が一丁となる。尾の白紙も同様に、有無の別があるが、本書では、首尾の白紙は各一丁以外は省略した。

2 原本の丁付は、各帖の巻ごとに付けたが、合一冊の丁付は、最初の扉または遊紙から付け、表・裏の別はオ・ウとした。

3 諸巻合一帖の冊子には、巻名が替わること、丁付を一オから改めて付けた。

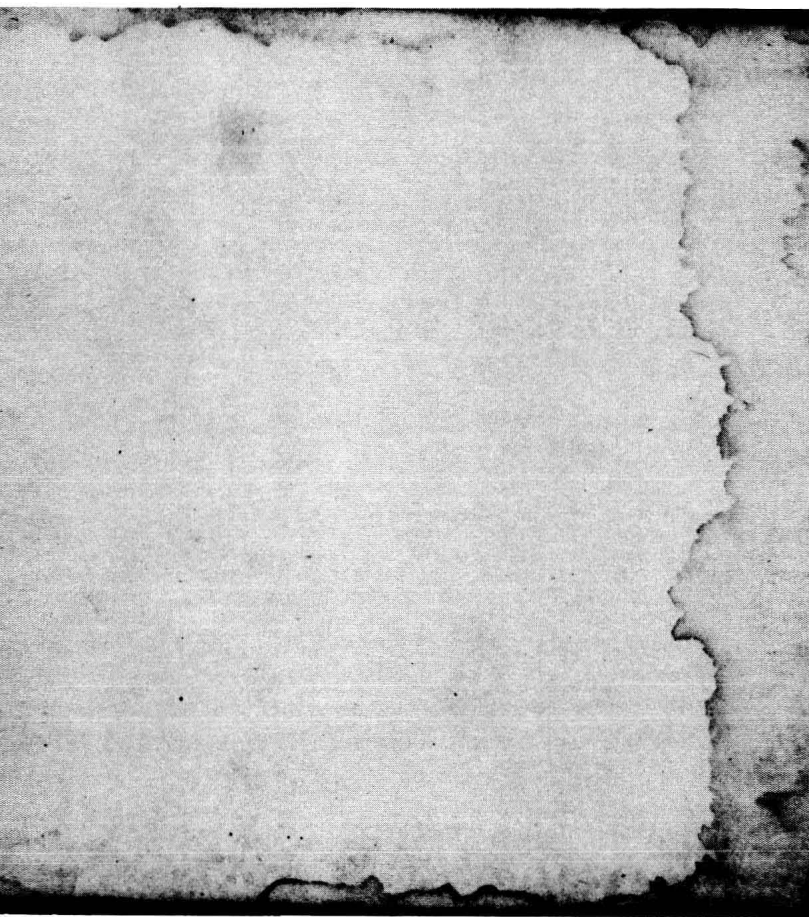
4 五十四帖の巻名は、現今通行の漢字表記とした。(例、檜・朝がお↓朝顔。
御幸↓行幸。蘭・ふちばかま↓藤袴。披柱↓真木柱。)

5 モノクロ影印での原本の汚れは、表紙は文様の剝落、本文は多く火水による損傷部分、裏うつりが出ている場合に限るといっても過言ではない。そういう状態を主として知っていたたく為に、本書には既刊の桐壺から須磨の巻までの要所を原色版で口絵に収めた。

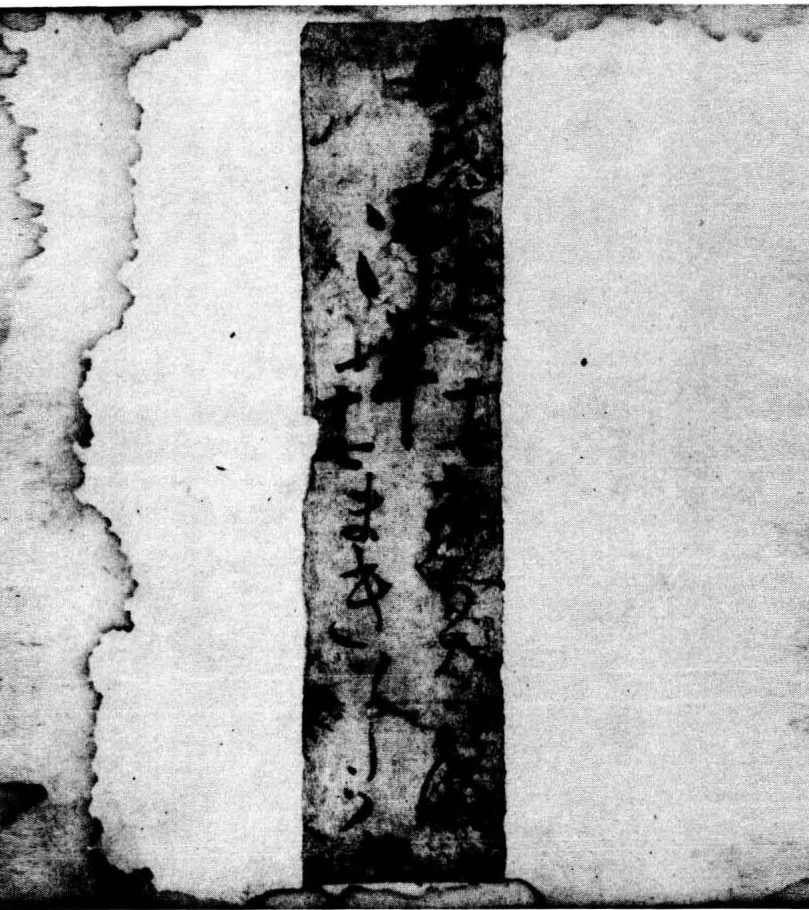
6 書誌は、各冊(十四分冊)ごとに、巻末に記した。



行幸（表紙）



行幸（見返し）



行幸（一才）



行幸（一ウ）

かくはしきなむとていづて
ふつゝもたほしわ川くも
これぞまゝ一れ流さううたけいそ
しゝわづくれあふしりあふ
うたけのかわしゝる人あふれ
かのふちなりともたけふ
こゝしゝるひさうさふれ
こゝにほしゝるもの
しゝるもの
ふちへはわづれめりふし

わが心は静かにありて
しやなまじはししとて
りき小大原野にけり
うへくみさくきとて
わが心は静かにありて
しやなまじはししとて
りき小大原野にけり
うへくみさくきとて
わが心は静かにありて
しやなまじはししとて
りき小大原野にけり
うへくみさくきとて

行幸（二ウ）

[illegible]

[illegible]

あゝいふにあらざるものなり
更なることなきをうたへり
源氏物語の如くは願ひの如く
しるすはみづからありし今
まゝにしるすはなかりしも
くさるゝものなりけり
たゞしきことなりけり
人々もよめたりけり
なりけり
中納言に
なりけり

行幸（四ウ）